

第35回日本サイコオンコロジー学会総会

10月14日(金)

第1会場 (タワーホール船堀5階 大ホール)

10:30～12:00 シンポジウム1

【地域におけるサイコオンコロジー】

座長：大西 秀樹 (埼玉医科大学 医学部 教授/埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)
西本 武史 (函館五稜郭病院 緩和ケア科・リエゾン精神科)

SY01-1 サイコオンコロジストが参加する一般病院のデスカンファランス
加藤 寿 (秩父市立病院 総合診療科)

SY01-2 心理職としてのアウトリーチ活動
石田 真弓 (埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)

SY01-3 非専門家でも学びながら実践できる、サイコオンコロジー
東 光久 (奈良県総合医療センター 総合診療科)

SY01-4 精神腫瘍医のいない緩和ケア病棟での悩みと患者・家族対応について
高久 秀哉 (水戸済生会総合病院 緩和ケア内科)

13:20～14:20 特別講演

座長：岡島 美朗 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

【サイコオンコロジーへの現象学的アプローチ】

榊原 哲也 (東京女子大学現代教養学部人文学科哲学専攻)

14:30～16:00 シンポジウム 2

【がんサバイバーシップ学～「学」を超えて実践のフィールドへ～】

座長：高橋 都（NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク）
岡島 美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）

SY02-1 がん医療における認知機能障害

谷向 仁（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 / 同大学附属病院緩和医療科）

SY02-2 がん治療医によるがんサバイバー支援

佐々木治一郎（北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学）

SY02-3 当事者のエンパワメントと研究者の役割—協働的な研究への示唆

秋山 美紀（慶應義塾大学 環境情報学部）

SY02-4 がんサバイバーが抱える社会的問題と支援ニーズ

久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学、石川県がん安心生活サポートハウス）

16:10～17:10 教育講演 1

座長：平井 啓（大阪大学大学院人間科学研究科）

【がん医療における行動変容と行動経済学】

大竹 文雄（大阪大学感染症総合教育研究拠点）

第2会場 (タワーホール船堀5階 小ホール)

10:30～12:00 大会長企画

【加藤雅志先生を偲ぶ】

座長：保坂 隆 (保坂サイコオンコロジー・クリニック)

吉内 一浩 (東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学)

清水 研 (がん研有明病院精神腫瘍科)

藤澤 大介 (慶應義塾大学医学部 医療安全管理部/精神神経科)

中澤葉宇子 (国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部)

下山 理史 (愛知県がんセンター 緩和ケアセンター/緩和ケア部)

13:20～14:20 教育セッション2

【がんゲノム医療の遺伝カウンセリングと心理的支援】

座長：岡村 仁 (精神科医 / 広島大学大学院医系科学研究科 精神機能制御科学研究室)

EL2-1 包括的がんゲノムプロファイリング検査を受ける患者の精神的苦痛の実態と支援プログラム開発

藤森麻衣子 (国立がん研究センター がん対策研究所 支持・サバイバーシップTR研究部 支持・緩和・心のケア研究室長/行動科学研究部 行動科学研究室長)

EL2-2 がん遺伝子パネル検査に期待する患者や家族への支援

村上 好恵 (東邦大学 看護学部)

14:30～16:00 教育講演2

座長：相木 佐代 (独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科)

【がん医療における心のケアに望むこと】

水谷 緑 (自営業)

16:10～17:40 シンポジウム3

【がん患者のQOLを高める非薬物療法】

座長：松岡 弘道 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

竹久 志穂 (近畿大学病院がんセンター 緩和ケアセンター)

SY03-1 がん患者の遺族の抑うつに対する行動活性化療法

小川 祐子 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SY03-2 Managing Cancer And Living Meaningfully (CALM) の有効性

宮本せら紀 (東京大学医学部附属病院 心療内科)

SY03-3 がん患者の心が求める食事のかたち～患者の生き方に寄り添う食事を探して～

本多 千鶴 (社会医療法人同愛会 法人本部経営統括部戦略推進室 管理栄養士)

SY03-4 がん患者のQOLを高める非薬物療法～作業療法士の立場から～

田尻 寿子 (静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科)

第3会場 (タワーホール船堀 2階 瑞雲・平安)

10:30～12:00 **事例検討1**

【終末期リハビリテーションとサイコオンコロジー：世代の特徴と多職種連携再考】

座長：福井 里美 (東京都立大学健康福祉学部看護学科)

吉田 稔 (日本赤十字社熊本健康管理センター)

CA01-1 AYA 世代の終末期リハビリテーション～死をどのように認識しており、どのような支援が必要であったのか？～
田尻 寿子 (静岡県立静岡がんセンター)

CA01-2 終末期がん患者に対する作業療法 - 患者の希望が聴取できない場合、どう対応すればよいか？ -
池知 良昭 (香川県立白鳥病院 リハビリテーション科)

指定コメント：瀬良 信勝 (亀田総合病院 緩和ケア室)

高橋 里江 (がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケアセンター)

12:10～13:10 **ランチョンセミナー1**

共催：ニプロ株式会社

座長：内富 庸介 (国立がん研究センター がん対策研究所)

【がん患者のうつ病、うつ状態：自殺予防として私たちにできること】

明智 龍男 (名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野 教授)

14:30～16:00 **シンポジウム4**

【小児がん患者の心のケア】

座長：竹内 麻理 (慶應義塾大学医学部 精神・神経科/緩和ケアセンター)

小澤 美和 (聖路加国際病院 小児科)

SY04-1 緩和ケアの視点から見た小児がん患者のこころの支援～治療中から治療後まで連続した支援のためにできることは～
余谷 暢之 (国立成育医療研究センター 総合診療部緩和ケア科)

SY04-2 ピアサポートによる様々な形の支援について

村瀬有紀子 (東京医科歯科大学 発生発達病態学講座)

SY04-3 成人医療の現場から

～小児がん経験者とその家族、医療者がそれぞれの立ち位置で体験する困惑を通して、伴走のあり方を検討する～
榎場 美穂 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)

10月
14日

第3会場

【医療従事者がファシリテートするピアサポートグループ】

座長：海津未希子（みその生活支援クリニック）

吉川 栄省（日本医科大学 医療心理学教室）

- SY05-1 医療者と患者が知らず知らず作っていた壁を取り払ったら見えたもの：乳腺内科お茶会を通じて学んだこと
伊藤 良則（日本医科大学 乳腺科）
- SY05-2 「支える」と「支えられる」が「生きる」を支える～サポートグループの場づくりからの学び～
栗原 幸江（認定 NPO 法人マギーズ東京 / 上智大学グリーンケア研究所 / 都立駒込病院緩和ケア科）
- SY05-3 リレー・フォー・ライフでの関わりから一語らいの場を中心に
河瀬 雅紀（医療法人（財団）桜花会醍醐病院）

第4会場 (タワーホール船堀2階 福寿)

10:30～12:00 シンポジウム6

【不眠・せん妄に対する向精神薬の薬理的知識と使い分けについて】

座長：佐伯 吉規 (がん研有明病院 緩和治療科)

貞廣 良一 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SY06-1 不眠時・不穏時指示薬の使い方をめぐる課題～看護師の立場から～

宇津木 智子 (がん研究会有明病院 緩和ケアセンター)

SY06-2 不眠時や不穏時に用いる向精神薬の“わかりやすい”薬理的知識

井上 真一郎 (岡山大学病院 精神科神経科)

SY06-3 シンポジウム精神症状『2：がん患者の精神症状に対する静脈内投与の薬物療法を再考する』

がん患者におけるデクスメトミジンの可能性

北浦 祐一 (松下記念病院 精神神経科)

SY06-4 「患者よし、主診療科よし、病棟よし」リエゾン医による三方よしを

目指した向精神薬の使い分け

大矢 希 (京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学)

12:10～13:10 ランチョンセミナー2

共催：エーザイ株式会社

座長：山田 了士 (岡山県精神科医療センター 副理事長 岡山大学 名誉教授)

【痛みの専門医の立場から考えるがん患者の良好な睡眠を実現する意義】

住谷 昌彦 (東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部 / 麻酔科・痛みセンター 部長)

13:20～14:20 教育セッション1

【サイコオンコロジストが知っておくべき医療安全】

座長：稲垣 正俊 (島根大学 医学部精神医学講座)

EL1-1 医療安全の観点からの自殺予防

松村 由美 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理部)

EL1-2 医療安全の威を借りてサイコオンコロジーを推進する

藤澤 大介 (慶應義塾大学 医学部 医療安全管理部 / 精神神経科)

10月
14日

第4会場

14:30～16:00 シンポジウム7

【うまくいかない多職種連携について考えるー感情に焦点を当ててー】

座長：大島 淑夫（がん研有明病院 腫瘍精神科）

岩満 優美（北里大学 大学院医療系研究科 医療心理学）

SY07-1 困難事例で経験した感情に焦点を当て、精神科医の立場から多職種連携を考察する

平山 貴敏（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

SY07-2 チームの成熟課程に伴う様々な思いを経験して～看護師の立場から～

木野美和子（筑波メディカルセンター）

SY07-3 多職種連携での「もやもや」を考える ～心理士の立場から～

岡本 恵（京都第一赤十字病院 精神科（心療内科）・緩和ケア内科）

16:10～17:40 シンポジウム8

【サイコオネコロジストによる患者指導管理料の算定】

座長：岩満 優美（北里大学 大学院医療系研究科 医療心理学）

SY08-1 がん患者指導管理料算定の現状と課題～公認心理師の立場から～

高橋 恵子（みやぎ県南中核病院 患者サポートセンター）

SY08-2 がん患者指導管理料イ・ロの適正な算定に向けた取り組み～看護師の立場から～

黒澤 亮子（東邦大学医療センター大森病院 看護部 緩和ケアセンター）

SY08-3 基本的サイコオネコロジーとしてのがん患者指導管理料の概況と臨床実践

所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科 / 支持・緩和療法チーム）

SY08-4 がん患者における終末期の意思決定支援・ACPのエビデンス

森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

第5会場 (タワーホール船堀2階 桃源)

10:30～12:00 **事例検討2**

【臨床倫理×サイコオンコロジーのクロスオーバーで検討する対応困難事例】

座長：中西 健二 (鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部医療福祉学科)
松原 貴子 (三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)

CA02-1 統合失調症で最期まで十分な緩和的薬物投与ができなかった乳がんの事例

松田 良信 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
岡山 幸子 (宝塚市立病院 緩和ケア病棟)

指定コメント：一家 綱邦 (国立がん研究センター中央病院 臨床倫理支援室)
佐々木 史 (市立函館病院 精神神経科)

13:20～14:20 **J-SUPPORT 企画1**

【早期からの専門的緩和ケア】

座長：稲田 修士 (近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門 / 近畿大学病院がんセンター 緩和ケアセンター)

JS1-1 早期からの専門的緩和ケア～J-SUPPORT1603 試験から考える～

松本 禎久 (がん研究会有明病院 緩和治療科 / 国立がん研究センター東病院 緩和医療科)

14:30～16:00 **シンポジウム9**

【ガイドライン：遺族ケア】

座長：明智 龍男 (名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野)
松岡 弘道 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SY09-1 遺族支援の基盤となる悲嘆の概念とその背景理論

瀬藤乃理子 (福島県立医科大学 災害こころの医学講座)

SY09-2 死別後にみられる精神症状の評価と診断～DSM-5とICD-11の相違も含めて

岡村 優子 (国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所 支持・サバイバーシップTR研究部)

SY09-3 膵臓がんのグリーフケアとアドボカシー

眞島 喜幸 (特定非営利活動法人 パンキャンジャパン)

SY09-4 臨床疑問1：遺族の心のケアとしての非薬物療法の有効性について

竹内 恵美 (国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部)

SY09-5 がん等の身体疾患で死別した遺族の精神心理的苦痛に対する向精神薬の有効性について

阪本 亮 (近畿大学医学部内科学教室心療内科部門 / 緩和ケアセンター)

指定発言：坂口 幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部)

10月
14日

第5会場

【ガイドライン：コミュニケーション】

座長：間島 竹彦（国立病院機構 渋川医療センター 精神腫瘍科・緩和ケアセンター）

秋月 伸哉（がん感染症センター都立駒込病院）

SY10-1 患者さんを支援するコミュニケーションプログラム

白井 由紀（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻）

SY10-2 コミュニケーション技術を学ぶことができるか？

秋月 伸哉（がん・感染症センター都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

SY10-3 がん治療における悪い知らせのコミュニケーション

下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

SY10-4 患者の価値観を踏まえ今後のことについて話し合う

大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科）

ポスター会場 (タワーホール船堀 1階 展示ホール)

17:50 ~ 18:20 (発表者在席時間)

- P01** Stage IVのS状結腸癌の治療中に統合失調症を再発、精神科に転院し、最後は十分な緩和ケアを行えた1例
坂田 幹樹 医療法人白水会 紀泉病院 精神科
- P02** 精神症状を伴う神経内分泌腫瘍における病名告知
根本 康 さいたま市立病院 精神科
- P03** バルプロ酸ナトリウムの単剤投与が有効であった、声門上癌の過活動型せん妄の一例
高橋 有記 東海大学医学部付属病院 専門診療学系精神科学
- P04** 取下げ
- P05** 緩和ケア病棟における膵がん患者の不安に関連する因子の検討
伊藤 哲也 東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科
- P06** 日本語版 Fear of Cancer Recurrence Inventory 短縮版の妥当性の検証
内田 恵 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
- P07** がん患者の希死念慮の原因はうつ病だけではない。：緩和ケアチームが介入した30例から見たこと
木尾 祐子 兵庫県立がんセンター 緩和ケア内科
- P08** がん患者の抑うつを測定するためのコンピュータ適応型テストの開発
栗栖 健 東京大学大学院医学系研究科 ストレス防御・心身医学
- P09** 精神障害者のがん診療における課題：精神科医療従事者に対する質問紙調査
山田 裕士 岡山大学病院精神科神経科
- P10** 進行がん患者のせん妄に対するペロスピロンの安全性と有効性に関する多施設共同前向きレジストリ研究 (Phase-R)
井上真一郎 岡山大学病院 精神科神経科
- P11** うつ病のがん患者に対する行動活性化療法の実施可能性と有用性の検討
平山 貴敏 国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科
- P12** 乳がんサバイバーの再発恐怖に対するスマートフォン精神療法の有効性 - 分散型無作為割付比較試験
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学
- P13** STAS - Jを用いた緩和ケアチームの介入効果の検討
門田 芳 松山赤十字病院 精神科
- P14** 終末期がん患者の配偶者の予期悲嘆に影響する配偶者の特性と社会的支援ニーズに関する研究
天野可奈子 市立長浜病院 患者総合支援センター・がん対策推進室
- P15** 親ががんになった子どものケアを緩和ケア病棟で行う際の工夫と限界について
荻野 行正 京都民医連中央病院 緩和ケア病棟

10月
14日

ポ
ス
タ
ー
会
場

- P16** 疼痛コントロールに難渋した患者への緩和ケアチームアプローチ
北浦 夏子 市立岸和田市民病院
- P17** 統合失調症など精神疾患の既往のあるがん患者に対する精神科コンサルテーション・リエゾン活動内容の検討
井田 逸朗 独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 精神科
- P18** 全国がん診療連携拠点病院等における心理職の配置状況に関する研究
高場ちひろ 群馬県立がんセンター がん相談支援センター 相談支援課
- P19** がん看護外来におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践
中村 真理 神戸市立神戸西医療センター 緩和ケアセンター
- P20** つらさのスクリーニングにおける緩和ケアチーム介入希望の有無による苦痛や気がかりの違いの検討
正井 志穂 神戸市立西神戸医療センター 緩和ケアセンター
- P21** 専門医療機関連携薬局において、がん患者のバッドニュースにかかりつけ薬剤師として寄り添った事例について
本田 雅志 総合メディカル株式会社 天神中央店
- P22** 化学療法を諦めないという意味に寄り添い続けた一例
河野 恵 医療法人春秋会 城山病院
- P23** 子どものがんの理解を手助けする絵本のリスト作成
城戸 京香 群馬県立がんセンター がん相談支援センター 相談支援課
- P24** インターネット遺族調査からみえた当院の強みとコロナ禍における課題
吉良 結里 医療法人 JR 広島病院
- P25** 喉頭全摘術を拒否していたが音声合成アプリを利用して声を残すことで手術決意に繋がった進行がん患者の事例
佐藤 裕子 山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
- P46** 代替療法を希望する乳がん患者への意思決定支援
福岡由加吏 トヨタ記念病院 外科外来